

[成果情報名] 新たに登録される中晩生カンキツ「はるひ」の果実特性

[要約] 新たに登録される中晩生カンキツ「はるひ」は果皮がレモンに似た黄色で、果面が滑らかな特徴ある外観と芳香を持っている。果肉は柔らかく、糖度は露地栽培では 2 月になって上昇し、糖度13以上となり非常に食味がよい品種である。

[キーワード] カンキツ、品種、果皮、黄色

[担当] 農林技術開発センター・果樹研究部門・カンキツ研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成された中晩生カンキツの新品種「はるひ」の果実形質を調査し、本県への適応性を明らかにする。

「はるひ」の来歴

品 種 名	交配組み合わせ		
	♀	×	♂
はるひ	興津46号		阿波オレンジ
	(スイートスプリング×トビータオレンジ) (ヒュウガナツ×トビータオレンジ)		

[成果の内容・特徴]

1. 果実重は130～180gで、果形指数 105程度の腰高の扁球形である (表1)。
2. 果皮はレモンに似た鮮やかな黄色を呈するが、果肉は橙色である。果面は滑らかで、果肉歩合は約75%と低く、果皮は厚いものの剥皮性は比較的良好である (表1、表2)。
3. 減酸は比較的早く、露地栽培で 1月下旬に可食期となるが、糖度は 2月になって高くなり、 2月下旬で13以上となる。
4. 果汁は多く、独特の香りがあるが、じょうのう膜は厚く、種子は多い。
5. 浮き皮は 1月はほとんどないが、 2月になるとやや発生がみられる。

[成果の活用面・留意点]

1. 樹姿は直立性で、樹勢は比較的強い。トゲの発生は中程度である。果実はやや小果であるが、隔年結果性は比較的少なく、連年結果する。
2. じょうのう膜が厚く、種子が多いなどの欠点を有するため主力品種として位置づけるのは難しいが、これまでにない特徴ある外観と食味から地域特産カンキツとして産地化できる可能性がある。

[具体的データ]

表1 「はるひ」の露地栽培での果実特性（1）

年度	調査 月日	果形 指数	果実重 (g)	果皮色 <sup>z</sup>	果皮厚 (mm)	果肉 歩合 (%)	果肉色 <sup>z</sup>	含核 <sup>y</sup> 程度	糖度	酸含量 (g/100ml)
2004	1.20	103	176	3.7 <sup>z</sup>	4.2	76.5	6.0	3.0	11.9	1.00
2005	1.19	104	175	4.6	3.8	72.7	5.0	2.2	11.6	1.11
	2.20	106	130	6.0	2.8	76.2	6.5	2.8	13.1	1.07
2006	1.18	108	150	4.8	3.3	74.6	6.0	3.0	12.9	1.11
	2.19	108	133	5.7	2.8	74.0	6.0	3.0	13.8	1.08
2007	1.16	109	150	5.4	3.2	75.5	6.0	3.0	13.9	1.22
	2.20	107	137	6.0	2.9	74.5	6.0	2.8	15.8	1.15

<sup>z</sup> 果皮色はレモン色系カラーチャートを、果肉色はオレンジ色系カラーチャートの値

<sup>y</sup> 完全種子数を階級で調査 0:無種子 1:5粒以下 2:5~10粒 3:10粒以上

表2 「はるひ」の露地栽培での果実特性（2）

色	果 皮			じょうのう		肉質
	粗滑	剥皮難易	浮き皮	分離難易	膜厚	
黄	滑	やや易	無~軽	易	やや厚	軟



写真1 「はるひ」の果実（実物大）

[その他]

研究課題名：気候温暖化に対応したカンキツ栽培技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2009~2013年度

研究担当者：林田誠剛